

暮らしのかわらばん

一期一会

今号のいろいろ

●報恩講の豆知識

- (1) 親鸞聖人物語《前編》
- (2) 報恩講とは？
- (3) 報恩講の各派の日程

好評につきお念珠フェアーを
引き続き開催中！

平成23年 親鸞聖人・報恩講号

国産の仏壇と会津漆位牌の仏壇店

禁山佛心堂

☎0745-23-8911

(高田川築山信号北角)

(店舗まえに広い駐車スペースあります)

親鸞聖人の徳に報う大切に親しみ深い行事です！

(1)親鸞聖人物語

聖人は平安の末期、藤原氏一族の日野有範の子として産声を上げました。4才で父を亡くし8才で母を失い、わずか9才にして京都青蓮院で出家しました。夕刻となつての得度式に周辺の人々からは『明日に延期をしたら』と勧められましたが聖人は『あす(明日)ありとおもふ心のあださくら(桜)、よわ(夜半)にあらし(嵐)の吹かぬものかわ』と歌を詠まれ、以後約20年間天台の学僧として修業しましたが、聖人29才の春比叡山での修学も心満たされる事なく下山し、京都烏丸の六角堂に百か日間の参籠祈願をしました。祈願95日の明け方、夢の中で観音さまより

『行者、宿報にて設(たと)え女犯すとも、我玉女の身なりて犯せられむ。一生の間よく莊嚴して、臨終に引導して極楽に生ぜしめん』というお告げを受けました。

混沌としたこの時代は民衆も現世利益のため、権力者は政治権益安定の手段として仏教を利用していました。聖人は夢告を得た朝に、当時専修念仏を説いていた法然上人の下を訪ね百日の間教えを乞い、教えの真意と自らの決意が決して一時的なものではなく他力の念仏こそ衆生救済の唯一の道である事を確信したのです。

人間の真を尽くして仏となろうと努力する自力の道、その自力の道に行き詰まった惨憺たる身に開かれてくる如来の本願、そこに生きる他力の信が念仏です。そして『ただ念仏のみ』と宣言された法然上人の純粋な信心に心服し門下となったのです。

この確信の証を『ただひとすじに南無阿弥陀仏と称えて阿弥陀仏にたすけられよと申される師のみ教えを受けて、それを信ずるほかになんの理由も修道もない』と語られています。



この教えは本願念仏を中心として全ての階層に広められ、聖人も法然上人の下で共に生きる仲間を喜びのなかに見出されたのですが、奈良の諸大寺や権力者は念仏を亡国の声と非難し、1207年2月住蓮坊ら4人に死罪・法然上人は土佐に流罪・聖人は還俗の上越後に流罪となりました。はからずもこれが師・法然上人との永遠の別れともなりました。

越後に流された聖人は還俗し藤井善信とし、非僧非俗の立場から『愚禿親鸞』と名乗り『師・法然』に教えられた『一人で念仏申されるならば一人で称えるがよく、結婚して念仏が称えられるならば二人で称えるがよし』の通り、越後の豪族の娘『恵信尼』と結婚し人々と同様な肉食妻帯の生活を送ったのです。

『禿』とは頭髪を少しだけ伸ばした状態で俗に言う毛坊主を意味し、僧侶でも俗でもないぞと言う自己規定の様なものであり、浄土宗が出家教団の形を継承したのに対して、浄土宗の一流派である浄土真宗が在家教団としての一步を踏み出した由縁です。

宗祖が妻帯という戒めを破った事により、真宗門徒には『戒名』はなく、いわゆる『無戒の戒』として『法名』と称する理由もそこにあります。

二続きは次回です。ご期待ください二

(2)報恩講とは？

報恩講とは浄土真宗各派にとって、一年中で一番大切に親しみ深い法要行事とされています。宗祖親鸞聖人のご命日11月28日を中心にして、聖人の徳と恩に気づき報いる法要とされています。報恩講は本願寺の御三代・覚如上人が1294年に親鸞聖人の33回忌にあたつて『報恩講私記』を述べた事から推測すると南北朝時代の頃とされています。

諸説はありますが、最初は親鸞聖人の徳を偲んだ門徒達の毎月28日のお念仏の集いが大きな輪となつて、法会の基となつたともいわれ『講』と称され『お念仏を更に有り難く勉めさせていただく』と言う事から『報恩講』と呼ばれるようになったとも言われています。

在家では特別な規定はありませんが、東本願寺では11月21日より28日の8日間・西本願寺は1月9日より16日までつとめられますので、ご家族が揃われお勤め出来る日にご寺様にお参り頂き、正信偈をあげましょう。仏壇の莊嚴はローソクは朱・内敷は金襴など鮮やかなものにしましょう。

(3)報恩講の各派の日程

■浄土真宗本願寺派 1月9日～16日
■真宗高田派 1月9日～16日
■真宗浄興寺派 10月25日～28日
■真宗出雲路派 12月21日～28日

■真宗大谷派・真宗佛光寺派・真宗興正派・真宗木辺派
■真宗誠照寺・真宗三門徒派・真宗山元派 かく派とも
11月21日～28日
■浄土真宗東本願寺派 11月23～28日